

## ④令和7年度岡崎賞を受賞した職員編

このたび岡崎賞をいただき、心より感謝申し上げます。1996年に生活支援員（臨時職員）としてはじめてびわこ学園に来て、2000年から看護師としての道を歩み始めてから、あっという間の25年でした。日々の支援の中で、利用者さんから教わることは本当に多く、時には別れを経験することもありました。そのたびに、命と向き合うことの重みや、支えるということの意味を深く考えさせられました。相談業務や施設間の異動を通して、地域と施設のつながりにも目を向けるようになり、私自身の視野の広がりにもなったと思います。現在は病棟を離れ、利用者さんと直接関わる時間は減りましたが、これまでの出会いと学びを胸に、これからも自分らしく歩んでいきたいと思っています。



石塚 久嗣  
看護部長  
びわこ学園医療福祉センター草津



中尾 昌美  
生活支援部長  
びわこ学園医療福祉センター野洲

就職した当時、医療的ケアを受けて生活されている利用者さんに初めて関わることになり、緊張の連続でオムツ交換しているうちに1日が終わるような気持ちでした。自分は1年働き続けられるかと落ち込むこともありましたが、朝の会で名前を呼ぶと応えて下さる利用者さんの表情の変化に気づくことができたり、先輩職員と一緒にいろいろなうたを歌ったりする日々楽しさとやりがいを感じられるようになりました。

初めての行事でコスプレ(?)をしてご家族に挨拶したことや、同期の仲間と集まってはいろいろな話をした時間も大切な思い出です。

勤続25年を迎えられたのは、利用者さんとの関わりのなかで自分が持っているものや足りないものに気づかせてもらう毎日を過ごすことができたからだと思います。

これからも、利用者さんのパワーに負けなようがんばりたいと思っています。



「センター草津」での実習が、学園で働きたいと思ったきっかけでした。利用者さんと接する職員の素敵な笑顔や、利用者さんから向けられた笑顔に喜びを感じました。

その後、大津市の通園施設で働くことができました。自治会館を借りた平屋の施設で、毎日散歩やキャラバンで外出するなど、利用者さんや地域の方々と深く関わることができました。

当時の先輩職員、利用者さん、ご家族との現在の交流は、今でも私に働く喜びと頑張る意欲を与えてくれます。幼稚園の頃から将来の夢を聞かれて困っていた私ですが、多くの方々の支えのおかげで、今の幸せな日々があると感謝しています。これからも毎日楽しいことをしたいと思っています。



大原 牧  
生活支援課長  
びわこ学園医療福祉センター野洲



河井 孝典  
副所長  
びわこ学園障害者支援センター

そうですか25年も経ちましたか。就職した当初は毎日が楽しくてあまり何も考えていなかったように思います。特に休日が欲しいと思ったこともなかったような…。

びわこ学園の利用者（園生）と一緒に過ごす日々は、自分にとっては新しい人生の発見の連続でした。現在は?ということ、自分自身の立場も変わりびわこ学園でできる事も変わりました。だからこそ、自分のアイデンティティや価値観を形成してくれた利用者（園生）の方々への恩返しを違う「カタチ」で残りの時間を使いたいと思います。

びわこ学園では勤続25年の職員に対し、永年勤続賞としてびわこ学園の発展に生涯をかけ尽力された初代園長岡崎英彦先生の遺徳を記念した「岡崎賞」を贈呈しています。

ここでは、本年度岡崎賞を受賞した職員の投稿をお届けします。



**中島 朝美**  
生活支援員  
びわこ学園障害者支援センター

第一びわこ学園に入職した時、言葉のない利用者さんと職員さんが楽しそうに会話して笑い合っている姿を見て驚きと不思議で、自分も先輩職員のようにになりたい、と憧れを持って働いていました。

なかなか思うようにできず、落ち込んだり自信をなくしたり落ち込んだり…の毎日でしたが、話を聞いて下さる先輩や同僚、また利用者さんの笑顔や家族の皆さんにもたくさん支えられ、今まで働かせてもらってきました。

今も変わらず自分の支援に自信が持てず悩むことも多いですが、支援の仕事は自分だけでなく仲間、チームで関わることであり、「これが正解」という答えはないのだな、と気づいています。いろんな職種、仲間と話し合うことで新たな気づきや学びを得ることができ、自分自身成長することができました。

これからも感謝の気持ちを忘れず、日々丁寧に利用者さんと向き合っていけたらと思っています。

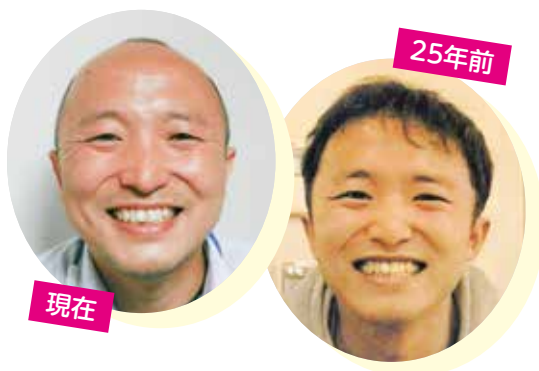


「教師生活25年!」アニメ『ど根性ガエル』に出てくる町田先生の決め台詞です。

子どもの頃、テレビを観ながら町田先生は「ずいぶんおじいちゃんだな～ベテランなのにあたふたばかりして」と思っていました。

だけど、自分も同じような年数になり、町田先生と見た目も中身も全く同じだなと実感しています。25年たっても、未だに日々、右往左往、一喜一憂、悩み悩みながら…悟りや達観には程遠い感じです。それでも、なんとかこうやって続けられたのは、利用者や家族、職員のおかげだと感謝しています。

「福祉生活25年!」いろいろなことがありましたが、福祉を好きでよかったし、福祉をずっと続けてきてよかったです。それだけは、確かに言えるかなあ～と。あ、もしかしたら、変わらないことが成長だと町田先生は教えてくれていたのかもしれない。



**増野 隼人**  
事業企画課長兼相談課長  
法人事務局  
びわこ学園障害者支援センター



**田處 浩吉**  
庶務課長  
法人事務局

「利用者と社会のパイプ役になりたい」——そう思って入職してから、26年目を迎えました。生活支援員として利用者さんの直接支援を続ける中で、職員やご家族、実習生やボランティアの皆様、さらに近隣学区や施設イベントで協力いただいた方々との関係が広がっていきました。

創立50周年を機に法人事務局へ配属となり、会議等を通して役員や評議員、第三者委員の皆様から多くのご支援をいただき、びわこ学園後援会事務局としても、役員や会員の皆様から寄せられる応援のお気持ちに触れています。これらすべては、利用者さんがいるびわこ学園が広げてくれた大切なご縁であり、心より感謝申し上げます。

そして創立60周年を過ぎた今、「この子らを世の光に」を継承しながら、「この子らと共に光り輝く時代に向けて」——前理事長からいただいたこの言葉を柱に、これからの20年も! ? 努めてまいりたいと思います。